

言いづらかったけど、一生に一度だからやりきろうと思って。  
あの時あんなに悩んだから最高と思える家をつくれました。後悔はないです。



# Come Home Story

ご入居後の  
お宅訪問  
No.029  
カムホームストーリー  
四万十市・Yさま邸  
竣工:2011年11月  
設計担当:福井 美絵



## 「売り込みもないし一生懸命に対応してくれて、情熱を感じました」

四万十市にお住いのYさまご一家。二人のお子さんが大きく「通学のこともあるし…」と借家への移住を考え始めました。そんな時、たまたまインターネットでの検索でヒットしたタイセイホームに「こんな家を見てゆう会社が高知にあるがや!」と心が動きました。「子どもがアレルギーなので建てるなら自然素材が良かった」と言う奥さま。タイセイホームの家づくりがオーダーメイドと自然素材をコンセプトにしていることが分かり、すぐに資料を請求。ZESTショップまで足を運び、そこで出会った山本(お客さまサポーター)に「売り込みもないし一生懸命に対応してくれて、情熱を感じました」という出逢いです。いっしょに家づくりの勉強を重ねていくうちに資金面も具体的なものになり、土地探しで「ここがいいんじゃない?」と山本に勧められた場所が条件に合ったことで、Yさまの家づくりが始まりました。

## 「変更も快く対応してくれて、アイデアもすごく良かったです」

「家が好きで本をよく見るんです」という奥さまは、内装に力を入れました。インターネットでステンドグラスや照明、家具などを探して取り寄せ、扉の取っ手まで統一された雰囲気になるよう気を配りました。ああでもないこうでもない福井(設計コーディネーター)と意見を出し合い、楽しい打合せだったと振り返る一方で、「決めることもたくさんあって悩みました」という場面も。洗面所では、収納を多くりたいという希望は叶っているものの、「娘がいるのでやっぱり収納を減らしても洗面と脱衣の間に扉があったら良かった」と振り返ります。今は扉の代わりにカーテンを吊るすための木枠をYさまご夫妻で手づくりし、二重に取りつけたカーテンを活用しています。最初のプランで気に入ったのが、キッチンからトイレの扉の明け開めが見えること。「言いづらかったけど、一生に一度だからやりきろうと思って」と、福井に相談してバスコンスペースを持っていくことで解消されました。「変更も快く対応してくれて、ステンドグラスや飾り棚のアイデアもすごく良かったです」と、壁の圧迫感を感じない好きなものを眺められるスペースに早変わり。今では1日の多くを過ごす、居心地のいいお気に入りスペースとなっています。

## 「前と比べて今の家は全然寒くないし、床が気持ちいい」

「ここからの眺めが好き」と奥さま。ダイニングからお庭に目をやると、職人の手の跡が残る白い塗壁の外壁。お日さまの光と緑の陰が、微妙な凹凸を静かに輝かせています。洗面脱衣の木枠と同じく、簡単なものは自分たちでつくると言う奥さま。住み始めて3年半が経ったいま、手を加えてきた場所は数知れず。洗面台の鏡の下の棚、洗濯機よこのニッチ、玄関の土間、ウッドデッキの下にインターネットで見つけたタイルを一枚ずつ貼合わせました。タイルのすこし傾いた姿が愛おしい表情を見せます。お庭にある小屋もまた、大工さんにつくってもらったあとにご夫婦でペキを塗って仕上げました。奥さまは「自分でやろうとしたら旦那が危ないからって手伝ってくれました」と、うれしそうな笑顔。愛情いっぱい、思い入れいっぱいのYさま邸です。「前と比べて今の家は全然寒くないし、床が気持ちいい」と、パインの無垢材を使用した床は気持ちのいい肌触り。外泊しても「自分の家が一番!」と帰ってくるお子さんたちに、奥さまは家を見て良かったと安堵の表情を見せます。これから家づくりを考えるご家族に、建てた人の話をたくさん聞いたほうがいいとアドバイス。「こうしておけば良かったと思うことはあるけど、あの時あんなに悩んだから最高と思える家を作れました。後悔はないです」と、思い入れの深いわが家が大好きなYさまです。